

## 読書感想文のすすめ

通信ネットワーク工学科 川久保 貴史

読書感想文は苦手である。

小学校や中学校の頃、長期休みの宿題として必ず課される作文が嫌で嫌でたまらなかった。そうはいても、半強制、拒否権無しの課題。とにかく原稿用紙のます目を埋めることだけを考えて書いた。埋めていくテクニックの例としては、出来るだけ長い名前の主人公が登場する作品を選んで、あらすじを延々説明するというものが挙げられる。（「ああ無情」はおススメ。登場人物の“ジャン・ヴァルジャン”を連呼すれば原稿用紙はかなりのスピードで埋まる。・・・くれぐれも、真似はしないように！）

さて、中学校を卒業して高専（本校）へ進んだ私は、ようやくこの読書感想文から逃げられると思った。ところが、入学と同時に友達に誘われて文芸部へ籍を置くことになり（いくつクラブを掛け持ちしていた）、その最初の夏休み、文芸部部长から出た指令は「読書感想文を書いて図書館の読書感想文コンクールへ応募しろ」というものだった。作文からは、そんなに簡単には逃げられないものである。

どうしようかと悩みながら、図書館からの読書感想文の募集要項を眺めていると、確か、次のような内容の記載があった。“専門書でも時刻表でも、感想文は書けるはずだ”・・・なるほど。じゃあ、やってやろうじゃないか！と思った。

その夏に、私が書いた読書感想文のタイトルは“「時刻表」を読んで”。本学図書館に残っていた「図書館だより」のバックナンバーから、拙文の書き出し部分だけ引用してみると・・・“数ヶ月前、私は、JR 詫間駅で「時刻表」を貰った。これは非常に特異な本である。実用性が高く、文章も簡潔すぎるほど簡潔で、しかも数字が殆どを占めている。”・・・嘘偽りなく、普通の時刻表についての読書感想文である。時刻表であるから、当然、特定の登場人物なんていないし、ストーリーなんて書かれていない。だから、前述の登場人物+あらすじ列挙法が使えない。しかし、裏を返せば、主人公を自分として、好き勝手に作文できるということである。（時刻表の主人公は、時刻表を使う人物、つまり自分自身である！）

各方面から怒られるのを覚悟の上で、そんな実験的な読書感想文を図書館へ提出したところ、なぜか入選。校長室に呼ばれて図書券を頂いたのを覚えている。（「これは読書感想文じゃないよ。」という審査員の意見もあったと伺っている。・・・仰る通り。）

本学を卒業して約10年、2009年の4月に教員として再びこの地に戻ってきて、夏の読書感想文コンクールがずっと続けられていることを知った。学生の皆さん、これはぜひ応募すべき。図書館で本を借りて読んだら、後は原稿用紙とシャープペンシルがあれば書けるこの作文（元手は要らない！）。それで入選したらオイシイと思う。本を読んで感じた思いを、是非、自分の言葉で書いてみよう！（ネットからコピペするのは厳禁。卑怯だ！）

私? . . . 私は, 読書感想文は苦手である。